

全国で唯一 古代山城の鍛冶工房

鬼ノ城 総社市奥坂

鬼ノ城（国指定史跡 鬼城山）は、標高約400mの鬼城山山頂に位置する古代の山城です。白村江の戦いにおける敗戦（663年）の後、唐（中国）や新羅（朝鮮半島）からの来襲に備えて西日本各地に築かれた山城の一つと考える説などがありますが、はっきりしたことはわかっていません。

平成18年度から開始した「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」調査事業も、今年度で4年目となりました。今回は城内の東端部で、鍛冶工房群の調査を行いました。原料の鉄を加工して城内で必要な鉄製品を作ったり、鉄の道具の修繕をしたりした工房跡と考えられます。

調査は3地点で行い、いずれの地点においても、鉄を加熱した鍛冶炉や、炉の火力を上げるために風を送る鞴の羽口（送風口）、鍛冶作業に伴って排出される鉄滓（不純物のかたまり）などが確認され、鬼ノ城の城内で比較的大規模な鍛冶作業が行われていたことが分かりました。



鬼ノ城出土の鞴羽口・鉄滓・砥石

きたみぞて
北溝手遺跡 総社市北溝手

弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡である、南溝手遺跡（『所報吉備』第47号参照）の発掘調査は、平成21年9月に終了しました。10月からは北溝手遺跡へ調査地を移動し、多くの成果があがっています。

まず第一に、調査区を縦断する畦を確認したことです。この畦は中世につくられ、最近までその一部は道として利用されていたことがわかりました。またこの畦は、現在の字名である「北溝手」と「南溝手」の字境にもなっています。

第二に、弥生時代中期前半の竪穴住居を複数軒確認したことです。調査区に隣接する県立大学の発掘調査（平成元年～5年）においても、この時期に該当する住居の確認例は少なく、貴重な検出例です。

第三に、今回確認した竪穴住居は、単独で検出することが少なく、3軒から多い所では5軒もの住居が重複していることです。多くの住居が重なりあって見つかるということは、もちろん同時期に建てられたとは考えられず、数世代にわたって、同じ場所に人々が定住していた証拠となります。

最後に、今回出土した遺物のなかで、ひときわ目立つ土製品があります。No.58 竪穴住居（長軸3.6m、短軸3mの長方形住居・弥生時代中期前葉）から出土したもので、長さ8.2cm、幅6.8cm、厚さ2cmの楕円形を呈しています。下端は欠損しているため、全貌は分かりませんが、やや外側に反っていることから、くびれを表現している可能性が考えられます。この土製品の表面には、先端が尖った工具でつけられた文様（刺突文）を観察することができ、その特徴などから弥生時代中期中葉から後期にかけて、岡山県を中心に分布する祭祀遺物である、分銅形土製品との共通性を指摘することができます。このような、分銅形土製品の祖形ともいえるべき土製品は、総社市真壁遺跡例や岡山市田益田中遺跡例など数例しか出土していません。住居跡という遺構の中から、明確な時期の分かる土器と一緒に出土した今回の土製品は、そういう意味でも重要な遺物であると言えます。



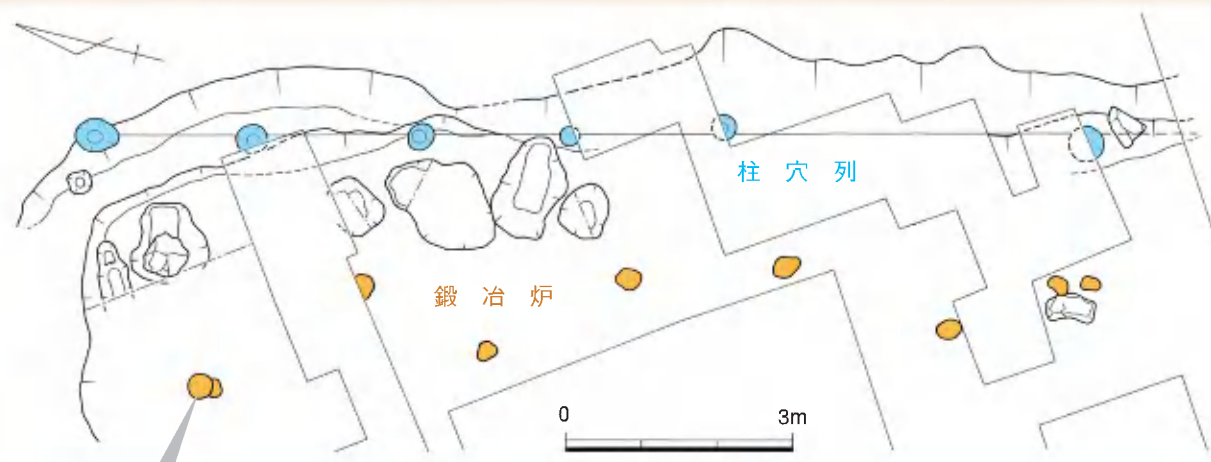
調査区を縦断する畦（中世～近世、北西から）



3軒の重複した竪穴住居（東から）



5軒の重複した竪穴住居（南から）



長大な建物を伴う鍛冶工房（1/100）



鉄滓と羽口が残る鍛冶炉

中でも、最も東に位置する調査区では、長さ13m以上に及ぶ柱穴列に伴って、9基の鍛冶炉が列をなすように発見されました。長大な建物の中に複数の鍛冶炉が配置されていたものと考えられ、この場所で集中的に鉄製品の製作が行われていたようです。付近からは釘や鉋などの鉄製品が出土しており、築城に必要な工具などを製作していた可能性があります。

古代の山城は国内に30か所ほど知られていますが、城内に備えられた鍛冶工房の様子が判明しているのは鬼ノ城だけです。築城や、城の維持管理のあり方などを考える上で貴重な発見といえます。（尾上元規）

おおこうち
大河内遺跡 勝田郡勝央町黒土

岡山県の北東部に位置し、山陽自動車道と中国自動車道を結ぶ美作岡山道路の建設に先立って、平成18年度に発掘調査が行われ、縄文時代草創期の石器が多数出土したことで全国的に知られた遺跡です。平成21年10月から、石器が出土した地点の北側の地区を発掘調査しました。

調査の結果、北西から伸びてくる微高地の先端部にあたり、何度か造りかえられた溝の様子から、鎌倉時代以降、人々が耕作を始めたことがわかりました。それ以前は、土の埋まった様子から数回にわたる川の流れることが確認でき、川または低い地形で、人が住める土地ではなかったようです。出土遺物には、鎌倉時代の瓦質の鍋や小皿、備前焼、勝間田焼、愛知県産の天目茶碗があります。川からは、少量の弥生土器や古墳時代の須恵器に加え、縄文時代のサヌカイトで作られた鍬も出土しています。（杉山一雄）



古墳時代以前の地形（北西から）
白線の範囲が川の流れた痕



古墳時代～弥生時代の川の痕（南東から）
黒い筋や範囲が川の痕



No.58 竪穴住居（北から） ○印は土製品



No.58 竪穴住居出土土製品

以上のように、多くの成果をあげた北溝手遺跡の調査では、弥生時代中期に営まれた集落のほぼ中心部分を発掘したと考えられます。この集落は、北へ下がっていく地形と共に、確認できる遺構の数も減っていきます。集落の北限を画するような、溝などの明確な遺構は、今のところ見つかっていませんが、地形の下がりを集落の北端と考えてもよさそうです。（松尾佳子）

うや 宇屋遺跡 和気郡和気町宇生

和気町宇生の丘陵の先端に位置する宇屋古墳は直径約13m、高さ約2mの円墳です。主要地方道岡山吉井線（美作岡山道路）道路建設に伴い、古墳とその周辺の発掘調査を実施しました。

墳丘からは、埋葬施設として粘土床をもった残存長3.8mの墓壇や、長さ約2mの箱式石棺が検出されました。盛土のほとんどが流出していましたが、墳丘を囲う幅約2mの周溝を確認することができました。墳丘上からは遺物が確認されませんでしたでしたが、墓壇の形状から、古墳時代前半の1,700～1,600年前に造られたものではないかと考えられます。



乳幼児を埋葬した箱式石棺（南から）



横穴式石室（南西から）

また、宇屋古墳周辺において、小規模な箱式石棺と横穴式石室が確認されました。箱式石棺は長さ90cmで、その規模から、乳幼児が埋葬されたと考えられます。棺内には枕石が残っていましたが、残念ながら遺物が出土しなかったため、この箱式石棺の時期ははっきりしません。横穴式石室は、長さ2mで側壁が2段積みです。半分近くの石材が斜面へ流出してしまっていますが、床面には礫が敷かれ、須恵器の平瓶が完形品で見つっています。この須恵器から、時期は古墳時代の終末期頃であると考えられます。

このような宇屋古墳や周辺の箱式石棺、横穴式石室の存在から、古墳時代をとおして、この丘陵を見上げる集落の人々は、宇屋古墳のある丘陵上を墓域として認識していたのではないかと考えられます。

（白木 亨）



宇屋古墳（南から）

津島遺跡活用事業

国指定史跡である津島遺跡の普及と活用を積極的に進めるために、「津島やよい広場」と「遺跡&スポーツミュージアム」を中心に講座や体験教室、やよいまつり等を実施しました。

また、小学校の校外学習の見学や古代体験についても、年間を通じて随時受け入れました。



津島遺跡文化財講座

津島遺跡についての理解を深め、その普及と活用を支援するボランティアの育成をめざす連続講座を開催しました。



各自製作の石包丁による収穫体験

	開催日	内容
第1回	5月23日（土）	講義：弥生時代の津島遺跡 実習：田植え体験
第2回	7月4日（土）	講義：弥生土器の種類と変遷 実習：弥生土器製作体験
第3回	9月19日（土）	講義：弥生時代の石器 実習：磨製石包丁製作体験
第4回	11月1日（日）	講義：弥生時代の収穫 実習：弥生時代の収穫体験
第5回	1月16日（土）	講義：弥生時代の集落と住居 弥生時代のマツリ
第6回	3月6日（土）	岡山大学考古学資料館見学

津島遺跡セミナー

「弥生時代の木製品」をテーマに、3名の研究者をお招きして、1月23日（土）に県生涯学習センターで開催しました。当日は100名の皆様に参加いただきました。

演題	講師
「木製品研究の進展」	大阪府立狭山池博物館 工楽善通
「津島遺跡の木製品」	岡山県教育庁 金田善敬
「中四国地方の木製品」	岡山市教育委員会 扇崎 由

津島やよいまつり

10月31日（土）と11月1日（日）に開催しました。オープンキャンパス形式で、火起こし、勾玉作り、土器作り等の弥生体験、津島遺跡の出土遺物・映像等の展示・解説、復元住居・建物の解説を行い、2日間で787名の皆様にお越しいただきました。



やよいまつりの様子

津島やよい体験教室

第1回の「弥生の布を織る」は、6月20日（土）に開催し、25名の皆様の参加をいただきました。当日は弥生・古墳時代の布について学んだ後、復元した原始機を使って織物体験を行いました。

第2回の「弥生土器を作ろう」は、10月3日（土）に開催し、29名の皆様の参加をいただきました。当日は弥生土器について学んだ後、弥生土器の製作体験を行いました。製作した土器は、後日センターで焼成してお渡ししました。



弥生土器の製作体験

企画展関連講座「海を越えた交流」

センター展示室では、4月21日（水）までの予定で後期企画展「海を越えた交流」を開催中です。

この展示にあわせて、12月19日（土）に企画展関連講座「海を越えた交流」を開催しました。それぞれ、搬入土器や須恵器、鬼ノ城などに関する最新の調査・研究成果を、50名を超える参加者の皆様に聞いていただきました。



企画展関連講座の様子

見学・職場体験学習等

今年度の見学、職場体験等には計30校の皆様に参加いただきました。特に本年度オープンした津島やよい広場には、延べ742名の児童の皆さんが来場してくださいました。



職場体験の様子

学校種	目的	学校数	児童生徒数
小学校	津島見学	12校	742人
	センター見学	7校	577人
	計	19校	1,319人
中学校	職場体験	7校	18人
	連携授業	1校	360人
	計	8校	378人
高等学校	進路学習等	2校	18人
特別支援学校	出前授業	1校	5人

埋蔵文化財担当職員研修会

県および市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした研修会です。本年度は、国立歴史民俗博物館考古研究系教授の藤尾慎一郎先生と岡山理科大学総合情報学部教授の小林博昭先生をお招きして、2月19日（金）に岡山県生涯学習センターで開催しました。

藤尾先生には炭素14年代からみた弥生時代の開始年代について、小林先生にはプラント・オパール分析からみた原始・古代のイネについて、それぞれ講義いただきました。



藤尾先生の講義風景



小林先生の講義風景

発掘調査現場の公開

平成21年度に開催した発掘調査現地説明会等の公開行事は次のとおりです。



遺跡名・行事名	場所	開催日	参加者数
美作国府跡 現地説明会	津山市山北	平成21年6月14日	130人
南溝手遺跡（天原地区）現地説明会	総社市南溝手	平成21年6月28日	180人
八紘古墳群 現地説明会	総社市山田	平成21年7月11日	220人
謎の鬼ノ城 城内調査大公開	総社市奥坂	平成21年9月7日～13日 平成21年12月1日～7日	470人 430人
北溝手遺跡（宝子玉地区）現地説明会	総社市北溝手	平成22年2月21日	300人
			計 1,730人

*以上のほかにも、現場周辺地域の方を対象にした説明会も行いました。



美作国府跡 現地説明会



八紘古墳群 現地説明会



謎の鬼ノ城 城内調査大公開

センター収蔵品紹介 vol.7

ついでら にきいつぼ
— 津寺遺跡出土の二彩壺 —

小壺は津寺遺跡の柱穴状土壇から発見されました。最大径7.3cm、高さ4.8cmの器表面には白と緑の二彩がまだらに配置されていますが、塗布が雑なのか焼成があまいためなのか、発色はにぶく全体に潤んだような印象をあたえるものでした。一般にこの種の小壺は唐三彩をまねて作られた奈良三彩とよばれる素地の白色、銅を混ぜた緑色、鉄を混ぜた茶色の三色からなる陶器ですが、津寺の小壺はのちに化学分析もしましたが茶色は確認されませんでした。しかしながら、彩釉の小壺は全国的にはこれまで100個余りしか知られてなく貴重で（岡山県では笠岡市にある大飛鳥遺跡から身と蓋あわせて20数点も出土しています）、その用途は発見例から公的な施設に伴う地鎮あるいは航海の安全などの祭祀に使われたものと理解されています。



二彩小壺の発見は瀬戸内海から古代吉備への入り口にあたる、備中国都宇郡に属す津寺遺跡の性格を解明するうえで、貴重なヒントを与えてくれたようです。（江見正己）

平成21年度各課事業一覧

<試掘調査・確認調査・発掘調査>

課	遺跡名 (所在地)	調査原因	種別	遺跡の内容・成果	調査期間 調査面積
調査第一課	(総社市清音上中島)	総社警察署清音駐在所建設	確認	1か所のトレンチを設定。遺構確認されず。	6.2~6.3 10㎡
	汐早散布地・中村遺跡 (笠岡市神島)	一般国道2号改築(笠岡バイパス)工事	試掘	汐早散布地に2か所、中村遺跡に3か所のトレンチを設定。遺構確認されず。	6.29~7.9 41㎡
	真備町No.42散布地 (倉敷市真備町妹)	ため池等整備事業(内山池地区)	確認	2か所のトレンチを設定。遺構確認されず。	8.17~8.18 38.6㎡
	西畑遺跡 (津山市下田邑)	一般県道西一宮中北上線道路改築	確認	3か所のトレンチを設定。古代の溝を検出、須恵器や土師器が出土。	9.7~9.15 34㎡
	戸島遺跡 (真庭郡新庄村戸島)	公共急傾斜崩壊対策(新庄村戸島地区)	確認	2か所のトレンチを設定。遺構確認されず。	11.16~11.25 10㎡
	金山屋敷遺跡 (英田郡西粟倉村影石)	中国横断自動車道姫路鳥取線(鳥取自動車道)建設	確認	10か所のトレンチを設定。鉄滓層を確認。	4.21~5.15 92㎡
	史跡 鬼城山 (総社市奥坂)	城内の確認・整備・活用	確認	飛鳥時代の古代山城。城内の3地点で計12基の鍛冶炉を検出。多量の鉄滓や輪羽口が出土。	7.1~12.28 1,350㎡
調査第二課	八絃古墳群 (総社市山田)	主要地方道倉敷美袋線道路改築	全面	4基の横穴式石室墳。墳裾に石列、盛土内に石積みをもつ。副葬品として土器・鉄器が出土。	4.1~9.30 1,200㎡
	宇屋古墳ほか (和気郡和気町宇生)	主要地方道岡山古井線(美作岡山道路)道路改築	全面	粘土床をもつ墓壇や箱式石棺を伴う古墳時代前半期の円墳。古墳周辺でも箱式石棺を検出。	10.1~3.31 1,350㎡
	南溝手遺跡ほか (総社市南溝手ほか)	一般県道服部停車場線道路改築	全面	弥生時代前期~古墳時代後期の集落跡。多数の竪穴住居・建物・井戸・貯蔵穴などを検出。	4.1~3.31 2,350㎡
	田益田中遺跡 (岡山市北区山益)	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター病棟等新築整備工事	全面	縄文時代の河道、弥生時代の土壌・溝、中世の建物などを検出。	4.1~7.31 1.4~2.26 1,481㎡
調査第三課	姥ヶ谷遺跡 (津山市市場)	一般県道三浦勝北線道路改築	全面	古墳時代前期の竪穴住居・掘立柱建物・段状遺構などを検出。	4.1~8.27 1,386㎡
	大河内遺跡ほか (勝田郡勝央町黒土ほか)	一般国道374号(美作岡山道路)道路改築	全面	中世以降の耕作跡、それ以前の河道を検出。また、大河内遺跡以北の確認調査を実施。	10.1~3.31 2,898㎡
	美作国府跡 (津山市山北)	都市計画道路大谷一宮線街路改築	全面	推定政庁城南東部の調査。井戸枠が残る深さ4mの井戸など、奈良~平安時代の遺構を検出。	4.1~6.30 1,116㎡
	高岡遺跡 (美作市宮本)	中国横断自動車道姫路鳥取線(鳥取自動車道)建設	全面	弥生時代後期の集落遺跡。段状遺構や土壌を検出。	4.1~6.30 860㎡

<報告書作成・刊行>

課	作成(遺跡名)	刊行報告書(遺跡名)
調査第一課	史跡 鬼城山	
調査第二課	八絃古墳群、田益田中遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告224(伊福定国前遺跡)
調査第三課	姥ヶ谷遺跡、美作国府跡、小塚の谷古墳ほか 婦本路古墳群、上東中嶋遺跡、高岡遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告225(婦本路古墳群) 同226(上東中嶋遺跡)、同227(姥ヶ谷遺跡)

メールマガジン「大地からの便り」読者募集中!



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3
TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内 ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM8:30~PM5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00~PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。



なくしていこう、差別・偏見・いじめ